

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091100224		
法人名	大和ケアサービス 株式会社		
事業所名	グループホーム 花うさぎ大橋		
所在地	〒815-0033 福岡県福岡市南区大橋3丁目19番15号 TEL 092-511-1112		
自己評価作成日	令和06年05月29日	評価結果確定日	令和06年07月02日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 TEL 093-582-0294		
訪問調査日	令和06年06月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は、入居者様に寄り添い自分のペースでゆったりと心地よい生活を送って頂けるよう、入居者様・ご家族様とのコミュニケーションを大切に、可能な限り柔軟に対応できるよう取り組んでいます。自立支援・身体機能の維持に努め、毎日の体操と個別でできることを検討しながら日常生活が送れるよう支援しています。行事・レクリエーションを行いながら入居者様が喜びを感じ笑顔を引き出せるよう工夫し、職員も一緒に楽しさ・喜び・達成感を感じ意欲的に繋がっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家庭的な環境の中で認知症高齢者が、安心して最後まで穏やかな暮らしができるグループホームを目指し、小規模多機能型居宅介護、住宅型有料老人ホーム併設で定員18名の事業所である。目の前には中学校があり、小学校、幼稚園、短期大学も近い利便性の良い立地で、地域の温かな協力を得ながら地域密着型事業所として交流を広げている。協力医療機関医師と看護師、介護職員が連携し、24時間利用者の健康管理に取り組み、安心の医療体制が整い看取り支援も行っている。管理者2名体制を継続し、ユニット間の連携を強化しながらチーム介護で利用者の明るい笑顔を引き出している。「花うさぎ大橋だより」やSNSで利用者の暮らしぶりを積極的に家族に発信し、こまめにコミュニケーションを取りながら、利用者や家族の思いに寄り添い、丁寧で細やかな対応で利用者や家族と深い信頼関係を築いている、グループホーム「花うさぎ大橋」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼にて理念の唱和を行い理念に沿ったケアを実践、行っている	法人理念を見やすい場所に掲示し、毎日の朝礼時に唱和して職員一人ひとりが、理念の意義や目的を理解している。職員会議や申し送り時に職員間で理念が実践できているかを確認し、日々の介護サービスに取り組んでいる。また、職員間で話し合っ作成したユニット毎の理念を申し送り時に唱和している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域活動として清掃活動を始め、校区の行事への準備や地域参加している	新型コロナ5類移行に伴い、中学校の職場体験や看護学生の実習の受け入れ等、認知症の啓発活動を積極的に行っている。地域の方の温かな協力の下、校区行事の準備段階から参加し、利用者や職員が地域の一員として、地域との信頼関係の構築に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議で、グループホームでの看取りを通して、認知症の方との対応の仕方をお話している。また、中学生の職場体験を通じて、認知症の方との関わりを経験してもらっている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	月に一度行われる会議では入居者の安心とサービス向上の為、何か問題や改善すべき事があれば、職員皆で話し合い意見を出し合いながら日々の業務に繋げている	新型コロナ5類移行に伴い、対面式の会議を再開し、地域の方や家族、社会福祉協議会、地域包括支援センター職員が参加し、ホームの運営や取り組み、利用者状況等を報告し、参加委員からは、意見や質問、情報等を提案してもらい、ホーム運営や業務改善に反映させている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的にいいききセンターを訪問したり、地域運営推進会議に参加された際には、情報交換等行っている	運営推進会議に、南区の社会福祉協議会や地域包括支援センター職員の参加があり、情報提供を受け協力関係を築いている。「さんたっくお助け隊」に参加し、近隣の介護事業所、南区の行政と協力して地域の高齢者や認知症の課題に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を主として年4回の活動を行いながら勉強会でもテーマを挙げ意見交換ができるよう環境を整え実践に取り組んでいる	身体拘束の全体研修を年2回実施し、禁止行為の対象となる具体的な事例について職員間で話し合い、確認しながら、身体拘束をしない、させないケアの実践に取り組んでいる。管理者会議の中で、各管理者から身体拘束の事例報告や話し合いを行うことを新たに委員会と位置づけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会と勉強会を行い、虐待防止の為に日々職員一人一人の意見の意識付けを図り努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関しては、毎年研修を実施して全職員が学べる機会を設けている	権利擁護の制度について、地域包括支援センターから資料を揃えて職員が学ぶ機会を設け、伝達研修で職員間の理解を深めている。利用者や家族から相談があれば、制度についての説明を行い、関係機関と連携しながら成年後見制度を活用できる支援を行っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は2人同席し説明不足がないよう質問や不安に思われているところも丁寧に対応しながら契約を結んでいる		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃のご様子や薬剤師からの助言を生かしてご家族からの意向を聞き、会議で話し合いし運営に反映している	面会や電話等で家族とコミュニケーションを取りながら、利用者の健康状態や暮らしぶりを報告し、家族の意見や要望を聴き取り、介護記録に青字で記入することで職員間で共有し、ホーム運営や介護サービスに反映させている。「花うさぎ大橋だより」を毎月家族に送付し、SNSでも積極的に発信して利用者の暮らしぶりを伝え、家族の安心に繋げている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回管理者会議の情報を伝達し、会議に参加できなかった職員にも説明を行っている。また、施設長への回答が必要な場合、後日回答を貰い反映に努めている	新型コロナウイルス移行に伴い、コロナ状況を判断しながら月1回16時から運営会議を開催し、その後各ユニットに分かれてカンファレンスを実施している。職員の意見や要望が出しやすい雰囲気の中で、活発な意見交換が行われ、出来ることから実現に向けて取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	不安や疑問を持つ職員とはこまめに面談などを設け不安のない働きやすい環境づくりを目指し取り組みに努めている		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についてもその能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別・国籍・年齢・資格など制限はしていない。職員の性格や得意分野を発揮できるよう努めている。また、育児休暇も取りやすい環境となっている	職員の休憩室やロッカーを整備し、希望休の確保や冬休みとしての休日、有休の取得等、法人全体で職員の処遇改善に取り組んでいる。職員の募集は、年齢や性別、資格、国籍等の制限はしていない。職員一人ひとりが年間目標を設定し、人事考課で評価を行う等、職員が向上心を持って働ける職場環境に取り組んでいる。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	管理者が、セミナーに参加しそこで学んだものを職場で実践し取り組んでいる	利用者の尊厳を尊重する介護サービスについて、研修会や会議等で話し合う機会を持ち、職員一人ひとりの意識づけを行っている。また、「安心と尊厳のある生活を支援する」と法人理念に掲げ、利用者が家庭的な環境の中で、穏やかに暮らすことが出来るグループホームを目指している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会や全体研修の参加・外部研修を受けれるよう勤めている。参加出来ない職員に資料の提供や説明など行い、知識を得れるよう努めている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内他施設の管理者との情報交換を図っており、訪問リハビリ担当との情報共有や薬剤師とコミュニケーションを密にサービスの質の向上に繋げている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様と日頃からコミュニケーションをとり、言葉以外の表情や行動などから入居者様の意思・考えを読み取りながら他職員と情報共有している		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会や電話対応の際、状態の変化や日常についてお伝えしている。ご家族の不安や要望等を伺い、その内容を職員全員で話し合い解決策を提供している		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様・ご家族様のお話を聞き、自立が成り立つよう支援を提供し、ご理解して頂き支援計画を立てている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご自宅で過ごされていた事が可能な事は取り組み、入居者様に自己決定・考えを尊重することを心掛けている。職員は、親族のように愛情を持って関わりながら施設の理念を忘れず敬いながら良い関係性を行っている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様にはいつでも面会できる環境を図り、日常生活の事や面会后の様子等、後日又は電話時にお伝えしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の面会もコロナ以前と変わらず来られている。知人・友人の面会もあっている。落ち着いた環境整備等に努めている	新型コロナ5類移行に伴い、コロナ状況を判断しながら友人や近所に住む知人等、馴染みの方の面会を再開し、職員は来訪者を歓迎し、ゆっくりと過ごしてもらえるように配慮している。また、家族の協力で、利用者の馴染みの店での買い物や美容院に出かける等、ホーム入居で利用者が培ってきた馴染みの関係が今後も継続出切るように支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の人間関係を把握しながら、アットホームな落ち着いた環境作りに努めている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後、ご家族様から連絡を頂くこともあり可能な限り対応している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の意思を尊重しながら、可能な限りその要望に添えるようカンファレンス等で意見を出し合い、職員全員が統一した支援が出来るように周知している	ホームでの日常会話から、職員は利用者の思いや意向を把握し、職員間で情報を共有して介護サービスに反映させている。また、意向表出が難しい利用者には、家族に相談したり、職員間で話し合い、職員が諦めずに利用者へ寄り添い、話しかけ、利用者の表情や仕草を観察しながら思いを汲み取っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供、ご家族様・入居者様のお話しの中から今までの生活習慣が保てるように努めている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録として1週間単位で情報が分かり、新たな情報を申し送りノート等にも記入し、職員同士情報共有しやすくしている		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成が主として、ご家族や入居者様に要望を聞くと共に、職員に事前にケアに関して意見を出し、まとめたことをカンファレンスで再度話し合い、統一したケアプランになっている	職員は、利用者や家族とコミュニケーションを取りながら、意見や要望、心配な事を聴き取り、他職種からの職員や主治医、看護師等の意見も取り入れて毎月のカンファレンスの中で検討し、利用者本位の介護計画を6ヶ月毎、看取りに入ったら3ヶ月毎に作成している。また、利用者の状態変化に合わせて家族や主治医と話し合い、現状に即した介護計画をその都度作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	言動や状態変化等細かく記入し、カンファレンスに挙げ職員間で情報共有しながらケアプランに反映している		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービス期間中、状況・状態の変化に応じ追加で必要な支援・方法は柔軟にケアプランを変更出来るようにしている		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出レクとして季節的な行事に触れて貰い、回想に繋がることで、表情が和らぐきっかけ工夫している		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日頃の観察を行い、急変・異常時にかかりつけ医と連携をとり、適切な医療機関にスムーズに受診が受けられている	利用者や家族の希望を優先して主治医を決定し、馴染みのかかりつけ医の受診は家族の同行をお願いしている。ホームの協力医療機関医師による月2回の往診と看護師、介護職員との連携で、24時間利用者の健康管理を行い、安心の医療体制が整っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不良、特変者が出た際、電話での指示受けや訪問して貰い適切な判断が出来るよう支援している		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際、施設での生活状況・ADL等を伝え、退院の際、医療機関と現状情報を聞き早期退院出来る努めている		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者様の現状を細かくが家族様に連絡をし、ご家族様の意向を踏まえ、かかりつけ医と連携をとり、方針の共有することでチームで出来る支援に取り組んでいる	契約時に利用者や家族に重度化や終末期に向けた方針を説明し、承諾を得ている。看取りに積極的に関わる主治医の協力を得て勉強会を行い、体制を整えて看取り支援に取り組んでいる。また、日頃から家族との関係を密にして、家族と一緒に利用者の看取りが出来る環境を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルやBCPの内容を確認して貰い、勉強会で対応・意見交換が出来るように計画を立てている		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全体研修で、自宅からの通勤路を確認する等、各自が安全に通勤できるようシュミレーションしてもらっている	非常災害を想定した避難訓練をスプリンクラー点検時に年2回実施し、主に通報と誘導の訓練を行っている。ホームが3階、4階に位置するため、一時避難場所の確保や併設事業所職員との協力体制を確認し、いざという時に職員一人ひとりが冷静で迅速に行動出来る訓練を行っている。また、非常食、飲料水、非常用備品も備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳する気持ちを大切にし、これまでの人生、過ごしてこられた出来事を否定せず、最後まで尊重を忘れず関わっている	利用者の人権を守る介護の在り方を職員間で常に話し合い、トイレ誘導の際は、本人だけに聞こえるように声かけを行う等、利用者一人ひとりの人格を尊重したサービス提供を心掛けている。また、個人情報の取り扱いについては、職員全員が情報漏洩防止に取り組んでいる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴した中で、選択して頂くことや希望される事は出来る事は叶えられるよう支援し、見守りながら自己決定が出来るよう努めている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今までの生活の背景をわすれず、その方に合わせた安心できる空間、その方のペースに合わせて必要な支援をしている		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で洋服を選ぶ、選択して貰いながら季節に合わせて服選びの支援を行っている。休まれた後でも、リビングのお連れする際は、髪をとく等整容を整える支援も実践出来ている		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	形状は個人に合わせ、その時の状態に応じて安全に心掛けています。食器も個人に合わせた物を使用している	配食サービスを利用し、利用者の好みに合わせて味を調整したり、食事レク、おやつレクでは職員による手作りの花見御膳、洋食定食、皿うどん、ぜんざい等を提供し、利用者に喜ばれている。また、らっきょう漬けや生姜シロップ、餃子作り等、利用者と一緒に楽しみながら取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	かかりつけ医、調剤師の助言を元に量の調整や必要とする栄養素をプラスするなどし、栄養管理に努めている		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の定期的なケアと、助言を貰い個人の口腔内ケアを注意すべきところを職員と情報共有し、統一したケアを行っている		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレで排尿排便ができるよう、定期時間を決め、以外でもこまめにトイレ誘導する事で不快感を取り除け、皮膚トラブルの軽減にもつながる支援が来ている	職員は、利用者の生活習慣や排泄パターンを把握して、早めの声掛けや誘導を行い、トイレでの排泄の支援に取り組んでいる。夜間帯は利用者の希望や体調に配慮しトイレ誘導やポータブルトイレ、オムツやリハビリパンツ、パットを使用して、利用者が快適に暮らせる支援に取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をこまめに飲用して貰いながら、運動や工夫した飲み物を提供しながら苦痛を取り除けるように取り組んでいる		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や気が向かないときは、時間帯を変更、翌日に変更などし状況に応じた支援を行っている	入浴は利用者の希望や体調に配慮し、週3回を基本として支援し、菖蒲や柚子を浴槽に浮かべたり入浴剤を入れる等、入浴を楽しめるように支援している。20時までは入浴できる準備はしているが、入浴を好む利用者が多く午前中に入浴する利用者が多くなっている。入浴は利用者と職員が一对一でゆっくり会話できる大切な時間と捉えている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	照明や温度調節しながらゆっくりとした空間づくりを心掛け、入眠しやすいような環境づくりを行っている		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師の定期訪問と、薬に関する情報や質問・疑問などあれば、的確なアドバイスを貰い服用後の変化の目安と観察しながら、かかりつけ医とも情報共有に繋げている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	回想につながる行事や得意とされていることを見つけ、活かしたお手伝いをして貰っている		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気をみながら散歩にお連れしている。花見や山笠見学を提案し、体調に合わせて計画を立てながら支援している	新型コロナ5類移行に伴いコロナ状況を判断しながら、外出レクリエーション(神社への初詣、季節毎の花見や苺狩り、山笠見学、地域の行事等に参加)を計画し、家族の協力で外食や買い物を楽しめる支援に取り組んでいる。気候の良い時期は、利用者の状態や希望に配慮しながら、出来るだけ戸外へ出かけるようにしている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在個人の金銭の所持はされていないため、行事ケーキ購入やおやつ購入時に職員と一緒に出掛け、お金の大切さを感じて頂いている		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族より電話があった際、ご本人様と話して頂く支援を行い知人や親戚からもお手紙を頂いたりしている		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険な物を取り除き広い空間で、清潔を心掛けている。照明調整・温度管理を行い心地よいと感じて貰えるよう工夫し努めている	4階建ビルの3階、4階がグループホームであるが、季節感のある壁面の装飾や花を飾る等、家庭的で温かな雰囲気環境作りを心掛けている。ホーム内はバリアフリーを完備し、清掃や換気が行き届き、清潔で明るい雰囲気環境の共用空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で過ごされたい入居者様やリビングで過ごされたい入居者様、個人対応で過ごして頂いてる		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	親まれた物を持ってきて頂き、不安のない安心して空間作りに努めている	利用者が長年使い慣れた馴染みの家具や寝具、家族の写真、身の回りの物、大切な物等を家族の協力で持ち込んで利用者が安心して穏やかに過ごせるように配慮している。また、換気や清掃をこまめに行い、利用者が快適に過ごせる居心地の良い居室である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	テーブルの配置やベットの位置など変え少しでも自立生活が送れるよう工夫している。その中でも見守りしながら、必要の状況や日により介入し安全に心掛けている		